

同志社大学「次世代研究者」プロフィール

2021年10月現在

基本情報					
フリガナ 氏名	ツダ 津田	ナツミ 菜摘	生年	1993年	
氏名(英字)	TSUDA	Natsumi	メールアドレス	ntsuda(a)mail.doshisha.ac.jp	
学歴	2012年4月 立命館大学文学部人文学科心理学専攻 入学 2016年3月 立命館大学文学部人文学科心理学専攻 卒業 2016年4月 同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士(前期課程) 入学 2018年3月 同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士(前期課程) 修了 2018年4月 同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士(後期課程) 入学 2021年3月 同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士(後期課程) 修了				
職歴	2018年3月-2020年3月 医療法人栄仁会カウンセリングセンター 非常勤受付・心理士 2019年3月-2021年3月 日本学術振興会 特別研究員(DC2) 2019年11月-2021年3月 京都保健衛生専門学校 非常勤講師 2020年3月-2021年3月 医療法人栄仁会宇治おうばく病院 非常勤心理士 2021年4月-現在 同志社大学研究開発推進機構及び心理学部 特別任用助教(有期研究員)				
指導教員	武藤 崇 教授	取得学位	博士(心理学)	専修外国語・読解可能な外国語	英語
研究活動					
研究分野	臨床心理学				
科研費分類による研究分野	人文・社会/臨床心理学				
研究テーマ	スティグマに対する第3世代の認知行動療法				
研究概要	これまでの研究では主に、精神疾患に対するスティグマに対して、アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)を用いてアプローチを行ってきた。ACTは、スティグマを言語的なプロセスとして捉え、スティグマを変容することを目指すのではなく、スティグマに気づき、行動への影響を弱めることを目標とすることを特徴とする。今後の研究では、ACTIによってスティグマを改善する効果を増大すること、より社会的なアプローチを行っていくことを目指している。				
研究業績	【論文】 津田菜摘・武藤崇(2020) 精神疾患に対するパブリック・スティグマはアクセプタンス&コミットメント・セラピーによって改善するのか—顕在的・潜在的指標を用いた検討—, 認知行動療法研究, 46, pp. 167-177. 津田菜摘・武藤崇(2018) 関係フレーム理論に基づいた精神疾患のスティグマ介入に向けた予備的研究, 心理臨床科学, 8, pp. 19-30. 津田菜摘・武藤崇(2018) 精神疾患に対する偏見は心理的柔軟性の高低によって差があるのか, 対人援助学研究, 7, pp. 44-54. 【口頭発表】 Tsuda, N., Okuyama, A., Sonoda, S., Makino, K., Nishii, A., Muto, T., Is it possible to use FAST in Non-English countries? ; An example of cultural adaptation. ACBS World Conference 17, Dublin, Ireland. (July, 2021)				
所属学会	日本心理学会, 日本認知・行動療法学会, 対人援助学会, Association for Contextual Behavioral Science				
キャリア関連					
志望進路	教員(大学), 研究員(研究機関, 企業)				
進路					
自己PR	博士課程在学中より、精神疾患に対するスティグマ改善のための介入研究や、心理師として精神科臨床などに取り組んでまいりました。また、2021年度より、心理学部学科科目「心理学実験(3)」「外国書購読」などを担当しております。				
取得資格等	公認心理師, 臨床心理士				

※メールアドレスの(a)は@を表しています